

九州大学農学部 スーパーグローバル大学等事業 経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援  
国際的視野を持ったアグリバイオリーダーの育成

海外大学での問題解決の科学体験プログラム  
～キングモンクット工科大学トンプリ留学プログラム～

## プログラム実施報告書

### I. プログラム概要

- ◎実施期間 平成29年2月28日（火）～ 3月10日（金）  
（平成29年2月27日（月）出発、3月11日（土）帰着）
- ◎実施場所・大学 タイ王国バンコク市・キングモンクット工科大学トンプリ
- ◎参加者 8名（3年生1名、2年生6名、1年生1名）
- ◎宿泊先 キングモンクット工科大学トンプリ内宿舎
- ◎引率スタッフ 尾崎 彰則 九州大学熱帯農学研究センター 助教  
野田 寿美香 九州大学農学部グローバル人材育成推進事業プロジェクト支援員
- ◎募集について ◆募集対象：九州大学農学部生  
◆募集期間：平成28年11月2日（水）～11月24日（木）  
◆周知方法：①ポスター掲示 ②学生ポータルでの通知 ③教室でのビラ配布  
④HP、Facebook掲載
- ◎費用 ◆航空券：63,580円  
◆査証取得費用：16,388円  
◆SIMカード代：100バーツ  
◆その他：観光、食事、移動費用等
- ◎奨学金 独立行政法人日本学生支援機構より1人70,000円支給  
（支給要件を満たす場合）
- ◎海外旅行保険 海外留学生安全対策協議会（JCSOS）の危機管理サービスと提携する公益財団法人 日本国際教育支援協会 「学研災付帯 海外留学保険」に加入。

◎スケジュール

2/27 (月)	福岡国際空港発(11:40) ⇒ バンコク国際空港着(15:40) ⇒ 大学内宿舎(18:00頃) 19:00 ウェルカムディナー
2/28 (火)	午前：オリエンテーションおよびキャンパスツアー 午後：プレゼンテーション
3/1 (水)	午前：講義 午後：講義
3/2 (木)	午前：講義 午後：福岡県バンコク事務所訪問
3/3 (金)	午前：フィールドトリップ質問表作り 午後：フィールドトリップ質問表作り
3/4 (土)	アユタヤ訪問
3/5 (日)	終日フリー バンコク市内観光
3/6 (月)	午前：蘭農家訪問 午後：沿岸部マングローブ林見学
3/7 (火)	王立プロジェクトによる農園見学
3/8 (水)	終日：プレゼンテーション準備
3/9 (木)	午前：プレゼンテーション、修了式 午後：フルーツマーケット見学
3/10 (金)	午前：プログラムミーティング 午後：International Fun Fair フェアウェルディナー
3/11 (土)	バンコク国際空港発(1:00) ⇒ 福岡国際空港着(8:00)



## Ⅱ. 事前準備

### 安全管理

#### ◆危機管理サービスの利用

今回、海外留学生安全対策協議会(JCSOS)の危機管理システムであるJ-TAS(JCSOS Total Assistance Service)を利用。J-TASとは留学生や家族から事の大小に関わらず24時間365日体制で受付し、トラブル解決のサポートをするシステムである。現地での病気、怪我、紛失等のトラブルの際の関係者への連絡、病院手配、保険手続き等の緊急支援が含まれており、プログラム参加者には、緊急連絡先が記載されたカードを配布。

#### ◆海外旅行保険への加入必須化

参加者には海外旅行保険への加入を必須とし、JCSOSと提携する公益財団法人 日本国際教育支援協会「学研災付帯 海外留学保険」に加入してもらった。各学生の保険契約書番号は万に備え、引率教職員と日本のオフィスとで共有。

#### ◆家族への連絡

参加学生の家族には、プログラムの日程、宿泊先、フライト情報、危機管理システム等について記載した書類を郵送し、安心して学生を送り出せるように配慮した。また、学生が短期留学プログラムに参加する際の遵守事項への承諾書に署名捺印をしてもらった。

#### ◆情報共有

緊急時に備え、引率職員は教職員を含む参加者全員分のパスポートコピー、パスポート番号、保険契約書番号、携帯番号、家族連絡先を記載したリストを常に携帯。同時にパスワードをかけたファイルを共有のフォルダに置き、九州大学のスタッフ・教員ともにこれを共有できるようにした。

### ビザ

タイへの入国の目的が留学であれば、その期間の長短にかかわらずビザの取得が必須となっている。福岡にはタイ領事館がないため、生協を通して代行業者に依頼し、大阪の領事館でビザの申請を行った。申請をしてからおよそ1週間ほど(郵送期間込)でビザを取得することができた。

### 携帯電話

緊急時の際の連絡手段確保のため、学生へオフィスの海外用携帯電話を貸与した。現地でのSIMカード代と通話料は学生負担とした。



### 事前講義兼オリエンテーション

日 時：12月26日（月） 14:50～16:20

場 所：21世紀交流プラザⅡ 2階第2講義室

講 師：尾崎先生

主な内容：○タイについての概要、日本とタイの関係。

○タイの農業について

○2つのグループに分かれ、下記内容にてグループプレゼン準備

1. 日本農業の基本情報（生産物、生産状況、農事カレンダー等）について
2. 日本農業に関連する地球温暖化問題

### 派遣前オリエンテーション

日 時：2月17日（金） 10:00～15:00

場 所：21世紀交流プラザⅡ 2階セミナー室

主な内容：スケジュールの詳細、宿泊施設、食事、渡航時の注意、服装や持ち物、安全情報。  
プレゼンテーション修正および練習。

## Ⅲ. プログラム実施内容

### オリエンテーション、キャンパスツアー

日 時：2月28日（火） 10:00～12:00

場 所：キングモンクット工科大学トンブリ バングモットキャンパス  
プレジデント・ビル Room No. 414

### 講義

日 時：3月1日（水） 9:00～16:00 4コマ（1コマ90分）

3月2日（木） 9:00～12:00 2コマ（1コマ90分）

場 所：キングモンクット工科大学トンブリ バンクンティエンキャンパス Room BT138

	講師・講義名	内 容
1	講 師：Varit 先生 講義名：Postharvest Technology in Thailand	熱帯果物の主な説明とその貯蔵、出荷について。
2	講 師：Songsin 先生 講義名：Thai Rice	タイでの稲作について。実際にタイ米を試食。
3	講 師：Winai 先生 講義名：Thai Agricultural Economy	タイの農業経済について。輸出入高、収入、各国との比較等。
4	講 師：Mantana 先生 講義名：Thai Orchid Industry	タイの蘭栽培について。

5	講 師：George 先生 講義名：Conservation Ecology in Thailand	タイにおける生態系について。
6	講 師：Ajarn 先生 講義名：Involvement of KMUTT in King Project	KMUTT が関係する王立プロジェクトについて。

【詳細】

講義そのものはタイ農業の導入的なものであり内容はあまり難しくなかったが、初めて英語による講義を聞くという学生もあり、若干理解するのに苦労している者もみられた。一方で、思ったよりも聞き取りができ、非常に興味を持って聞くことができたという学生もいた。講師から質問を投げかけたり、学生たちも積極的に質問を行い、双方向的で活発な講義を実施することができた。タイ人講師の英語能力の高さや学生の興味を引くインタラクティブな講義の仕方など、タイにおける講義レベルの高さを感じることができた。

フィールド・トリップ

◆日 時：3月6日（月）  
場 所：蘭農園

【詳細】

訪問した蘭農園はバンコク近郊に位置し、北アメリカ、ヨーロッパ、アジア、オーストラリア、ニュージーランド、中東等海外に多くの顧客をもち、広大な敷地で大規模に運営されている成功ケースであった。説明はすべてタイ語で行われ、それをキングモンクット工科大学の教員が英語に訳し日本人学生へ説明する形となった。逐次タイ人学生も補足の説明を日本人学生に行い、相互に協力して必要な情報を集めることができていた。



◆日 時：3月6日（月）  
場 所：マングローブ林

【詳細】

バンコク南西部に位置するキングモンクット工科大学トンブリ バンクンティエンキャンパスにほど近い沿岸部にあるマングローブ林を船に乗って見学した。以前は陸地であったが、地球温暖化の影響で海に沈み、誰も住むことができなくなってしまった場所も見学し、普段日本にはあまり感じることはできない温暖化の事実を目の当たりにすることとなった。マングローブにもいくつかの種類があることや、様々な鳥や魚、その他の生物等生態系についても学ぶことができた。ただ、船で駆け足に見学したため、ゆっくりと質問ができず、もう少し時間が欲しかったという学生もいた。



◆日 時：3月7日（火）  
場 所：Chang Hua Man Royal Project

#### 【詳細】

バンコクから南西へ車で3時間ほどのペッチャブリー県に位置し、王立プロジェクトにより運営されている農園を訪問した。やせた土地のため作物を作ることができなかった土地をタイ国王が私費を投じて整備し、農民の生活の質を向上させるために取り組んだ王立プロジェクトの1つである。野菜、果物の栽培のみならず、牛や鶏、さらに風力発電設備も備え付けられている。

#### 【レポート】

講義およびフィールド・トリップについての英語レポートをほぼ毎日提出することとした。毎日のことなので、あまり多くの量を書く必要はないが、その日に学んだことを自身で振り返ることによって1日のまとめとなり、さらに英語に慣れることに有効な手段であった。実際、プログラムの後半になるにつれ、レポートに慣れ、英語の文法や時制のミスが減っていった。

#### プレゼンテーション

日 時：3月9日（木）  
場 所：キングモンクット工科大学トンブリ バングモットキャンパス  
プレジデント・ビル Room No. 413

#### 【詳細】

本プログラムの総まとめとして、フィールド・トリップで訪問した場所について発表するプレゼンテーションが行われた。各グループ30分程度で全員が必ず発表するように1人1パートを受け持ち、最後に質疑応答の時間を5分ほど設けた。始まる前は学生に緊張もみられたが、準備時間がたった1日しかなかったにもかかわらず、全員堂々と発表を行うことができた。前日夜遅くまで、また当日も朝早くから準備と練習をしていた甲斐もあり、評価の高いプレゼンテーションとなった。



### キングモンクット工科大学トンプリ学生との交流

本プログラムにはキングモンクット工科大学トンプリ学生 5～8名ほどが常に参加し、英語での講義やフィールド・トリップにも同行し、日本人学生と共にプレゼンテーションも行った。タイ人学生が院生ばかりであったので、専門知識やタイの農業事情を日本人学生に説明したり、農家の方が話すタイ語の通訳をしてくれたりと日本人学生にとって非常に助けとなった。また、ともに食事をしたり、行動を共にして2週間弱という短い間ではあったが、双方にとって掛け替えのない思い出となった。帰国後もFacebookやLINE、メールで連絡を取り合い、よい関係を続けている学生もみられた。

### 単位認定

九州大学およびキングモンクット工科大学トンプリの教員によって、プログラム中の参加態度やレポート、プレゼンテーションの採点が行われ、その採点結果に従い、成績がつけられた。本プログラムは特別開講科目として、帰国後九州大学の単位として単位認定される。尚、新GPAシステムにより、特別開講科目もGPAの対象となる。

## IV. 環境

### 気候

タイの気候は熱帯モンスーン気候であり、雨期と乾期に大別できるが、バンコクにおける年間平均気温は29℃、平均湿度73%と高温多湿で年中蒸し暑く、一年中、日本の7、8月頃の気候と考えて良い。4～5月が最も暑く、日中戸外では気温が40℃近い日もある。夜も蒸し暑いため寝苦しく、一日中冷房を必要とする日が多い。6～10月の雨期には毎日1～2時間、雨が降る。市内では各所で道路が冠水し、著しい交通渋滞を引き起こす。11～5月が乾期であるため、プログラム期間中は雨に降られることもなく、問題なくフィールドトリップに行くことができた。また、事前に暑さに対して十分注意するようにと指導していたが、思ったほどの酷暑でもなく、快適に過ごすことができた。

### 食事

タイ料理は日本料理に比べると辛く、油っぽいため口に合わない学生がいることを心配していたが、おおむね学生たちは食事を気に入り、好評であった。タイ料理は米が主食であるため、日本人の口にも合いやすかった。ただ、よく料理にはいっているパクチーが苦手な学生も数名いた。また、ドリアン、マンゴスチン、ジャックフルーツ、マンゴー、ドラゴンフルーツ等日本にはない熱帯性果物を初めて食べるという学生もあり、よい思い出となった。慣れない海外での生活において、現地の食事が合うかどうかは重要なことであり、ストレスの軽減または増加につながる。タイ料理が日本人の口に合いやすかったことは、タイで短期留学プログラムを行う利点の一つでもあった。



## 宿泊施設

キングモックト工科大学トンプリ バングモットキャンパス内のホテルに宿泊。街中にある通常のホテルのように清潔できれいな設備のため学生たちからは不満の声は一切なく、快適に過ごすことができた。部屋には冷蔵庫、バスタオルが備え付けてあり、共有エリアには談話スペース、コイン式洗濯機等もあり、便利であった。WiFiも第1週目は問題なく使用できていたが、2週目に他大学の団体が複数チェックインしたため、混雑して繋がりにくくなることがあった。



## V. その他

### 市内観光

プログラム中の日曜日が1日フリーとなり、タイ人学生に案内してもらいバンコク市内観光を楽しんだ。バングモットキャンパスがバンコク中心部から離れた場所にあるため、中心部へはタクシーで45分ほどかかる（渋滞状況によっては大幅に変化）。王宮や寺院見学、ショッピング等、1日しかない自由時間を学生たちは満喫していた。





## VI. プログラム実施後アンケート

1. 下記①～⑥の中で満足度の高かった、または非常に興味のもてた項目の番号を選んで、その理由も記入して下さい。①の場合はどの講義か具体的な内容を記入して下さい。(複数回答可)

① 英語での講義	② Team Working (質問表作りやプレゼン準備)	③ 福岡県事務所訪問
④ 蘭農園・沿岸部見学	⑤ 王立プロジェクト見学	⑥ Presentation

①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業を英語で受けることが初めてだったのでとても新鮮な経験となったため。また、自分でも英語の授業についていけるという自信にもなったから。</li> <li>・タイにおける農業や環境に関する講義では、今回訪れなかったタイの北部・北東部・南部地域の特徴を地理的要因から詳しく知ることができた。また大学による農村地域の開発に関して、開発が行き過ぎないよう住民との密なコミュニケーションを重要視している話は非常に納得できるもので興味深かった。</li> </ul>
②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分のなかでは、一番英語が使えた時間だと思う。自分の主張を話し、相手の主張を聞いた。</li> <li>・協力して質問を考えたりしていく過程で連帯感が生まれたから。会話を通して仲が深まり、質問を考える力をつけることが出来た。</li> </ul>
③	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タイと日本、特に福岡との関係について現地に住み、多くの日本人や日本企業と関わった方からお話を聞ける機会は貴重だったと思います。東さんのお話を通じて、タイを身近に感じることができました。</li> <li>・福岡、バンコクの両方で暮らした経験を持つ方の話を聞くと2つの都市の特徴が明確に理解でき、また短い滞在ではわからなかった政治・経済に関わる話やタイの人々の暮らしなど、実際に現地で生活している人でないとわからない話を聞けたことは良い機会だった。</li> </ul>
④	<ul style="list-style-type: none"> <li>・TOC の訪問では、働いている人に直接質問をすることができて、ランの栽培方法やポストハーベストについて詳しく知ることができたから。</li> <li>・タイの農業というとまだまだ未発達なイメージがありましたが、品種改良から輸出まで自分たちで手掛けているところもあると知れて驚きでした。</li> </ul>
⑥	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英語のプレゼンを作りそれを英語で発表することはもちろん、聞き手の立場に立って作ることがとても重要だということを改めて感じたから。</li> <li>・自分たちが他者にプレゼンテーションをする際に、授業や見学だけでは気づかなかった点にまで理解を深めることができた。</li> </ul>
②⑥	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人的に、英語でプレゼンは初めてでした。わからないこと難しいこともたくさんありましたが、自分の全力を注いだと思うのでいい経験になりました。</li> </ul>
①② ④	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いずれも自分の知りたいことを英語で表現したり、相手の話を正しく理解したりする必要があったので、タイの学生さんや先生と普段より高度な話をすることができたから。これらの活動</li> </ul>

	で、自分がどれだけ英語が聞けるか聞けないか、いかに表現する力が足りないか実感できました。
--	--

2. 上記①～⑥の中で満足度の低かった、または興味をもてなかった項目の番号を選んで、その理由も記入して下さい。①の場合はどの講義か具体的な内容を記入して下さい。(複数回答可)

①	<ul style="list-style-type: none"> <li>•他の現地の学生ももっと参加する形で、講義がうけられれば良かったと思う。</li> <li>•生態系調査の授業はタイとの関係が分かりにくかったです。</li> </ul>
②	<ul style="list-style-type: none"> <li>•準備の時間が長かった気がするから。</li> <li>•作業をする学生メンバーが毎回異なっていたために最終目標までの計画が立てにくかった。</li> </ul>
④	<ul style="list-style-type: none"> <li>•もっと、質問しやすいようにしてもらいたかった。</li> <li>•個人的にラン栽培にまったく興味が持てなかったのが大きいです。</li> <li>•自分たちの疑問を解決する場が少なかった。</li> </ul>
⑤	<ul style="list-style-type: none"> <li>•もっと、質問しやすいようにしてもらいたかった。</li> <li>•現地で新たに得られた情報が少なく、プレゼンに用いた情報はほとんど学生さんや先生から教えてもらったものやインターネットからの情報だったので、実際に行った意味があまりなかったから。</li> <li>•農園の見学をしたという感じだったので、王室プロジェクトについてもっと質問ができればよかったと思う。また、王室プロジェクトでビデオを見たがタイ語で理解できなかった。</li> <li>•滞在時間が短く調査に十分な時間が取れなかった。</li> </ul>

3. このプログラム全体を通して改善して欲しい点、不便に思った点があれば記入して下さい。

◆生活面

- 毎日、水が支給されていたのは良かったです。
- 特にありません。むしろとてもいい環境でした。
- ほぼ完ぺきだった。 欲を言えば Wi-Fi が弱かったこと。
- 特になし。
- ほとんど不自由ありませんでした。
- キャンパスはメインキャンパスにそろえてほしいです。
- 日本人学生それぞれにパートナーとなるタイ人学生が 1 人ずつ決められていれば、お互いの交流もよりスムーズになったと思う。

◆学習面(講義・フィールドトリップ)

- タイの文化的、農業的知識に関して、もっと事前学習があってもよかったのではないかと思います。
- 個人的には、農学分野の話が多く興味が持てました。果物のポストハーベスト技術がどのようなものか、実際に行っている例や研究している方法について、もっと知りたいなと思いました。(専門知識がまだない)

ので、今回くらいの基礎的な内容でちょうどよかったかもしれませんが…)

- ・マングローブの見学はもっと入り組んだ場所を進むことを期待していた。
- ・講義が行われるキャンパスまでの移動が大変だった。フィールドトリップではもっと現地の人と話す時間があればよかったと思う。
- ・もう少し、専門的な質問をできる機会を増やしてほしいです。
- ・申し込み前からもう少し講義の内容がつかめたらよかったと思います。
- ・フィールドトリップではまとめてもうちょっとインタビューする時間が欲しかった。
- ・フィールドトリップに関しては、プレゼンテーションのための調査とするには自分たちの疑問を解決する場が少なかった。

4. プログラムを通じて異文化交流ができてよかった点があれば具体的に記入して下さい。

- ・タイの学生たちが本当に優しくなったなと思います。おかげで、現地でも、安心して行動できました。
- ・日本では見られないようなライフスタイルを見て、単純に面白かったです。食事をするところも屋外が多いですし、バスも窓が全開で蒸し暑いけど、自然の風を浴びて新鮮でした！あと、タイが王国だからかもしれませんが、学生さんは国でどのような政策が進められてきたのか(ロイヤルプロジェクトなど)みんな詳細に説明できるくらい知っていたので、ほとんど日本の政治などに関心のない自分との違いを感じ、自分の国民としての教養や常識のなさを痛感しました…。
- ・自分よりもだいぶ先輩になるが二週間弱を通してタイの学生と友達になることが出来たこと。また国王を崇拜する文化の中で日本との違いをたくさん発見することが出来たこと。昆虫を食べるなど日本では絶対に体験できない文化にふれ、それを体験できたこと。
- ・タイ人の学生と一緒に行動して、タイ人が普段どんなものを食べていて、どんな生活をしているのか知ることができて興味深かった。
- ・タイと日本でのモノの考え方は文化の違いがあるといっても大きくは変わらないと思いました。例えば、礼儀を重んじるなどです。
- ・放課後の時間も毎日のご飯に連れて行ってくれたのでうれしかったです。
- ・友達が海外に出来た。英語力に自信がついた。
- ・授業が終わってからもタイの学生が街中を案内してくれ、学校生活だけでなく食をはじめとして様々なタイの文化に触れられた事は貴重な経験だった。

5. タイの農業について学習できてよかった点があれば具体的に記入して下さい。

- ・あの大きい規模の農場に行けたのは、本当に良かったです。乾季に、契約農家からランを集めて、クライアントの信用を集めるといっても面白いと思いました。日本の農家さんでも、信用が第一というところがあるので、共通点が見られて良かったです。逆に、新しい品種の作り方とか、植え付けた板の通気性を良くする方法など、具体的な数字を理解できなかったのは、自分の英語力不足だなと感じました。また、故プミポン国王の偉大さを知りました。日本には全くない、国王主導のプロジェクトとそれに対する国民の信頼度は、驚きでした。もう少し、詳しく調べてみようと思います。
- ・蘭の生産法について、土をほとんど使わない方法はすごく衝撃的でした。ココナッツカップという廃棄物

を有効利用していて、南国の地域性を生かし、とても適した方法だと思ったので、日本も資源の有効活用と、持続可能で生産性の高い農業を工夫する必要があると思いました。

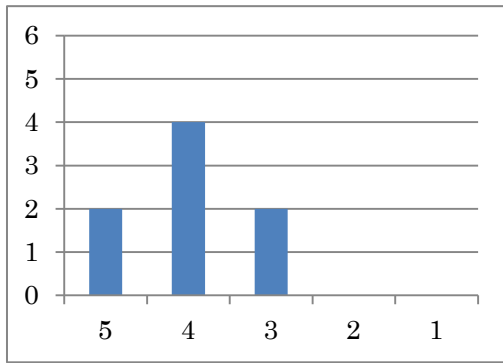
- ロイヤルプロジェクトは非常に面白かった。国王が直接国民を指導すること自体日本人からすると驚きだったが、それが実際に功を奏し、現在のタイを作り上げていることが分かった。
- TOC ではランの栽培にココナッツを使っており、また、沿岸部では海岸浸食を食い止めるために竹を利用していた。タイの農業において、身近にあるものを用いたタイ独特の農業がおこなわれているのは面白いと思った。
- 個人的には日本の農業はタイに全然負けていないと感じました。特に技術面。しかし、圧倒的な規模の大きさを感じました。
- タイの農業の発展している一面を見られてよかったです。
- 自国のことだけではなく海外の農業事情にも興味を持てた。
- 花卉や果物の栽培がタイでこれほどまでに盛んに行われていた事を今まで知らず、日本では名前も耳にしない植物についても知ることができた。それらの植物の特徴は日本にはない固有のものが多く日本には知り得なかった知識を得ることができた。

## 6. 意見や要望、感想等を自由に記入して下さい。

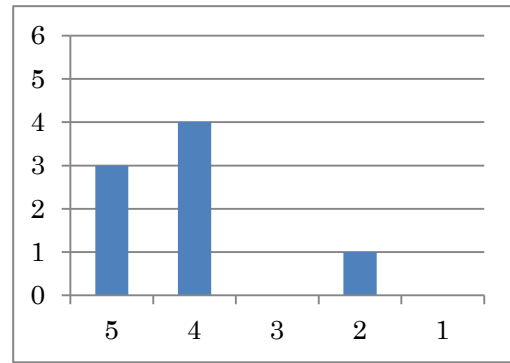
- 私は、個人的な反省はありましたが、プログラムには満足しています。ただ、研究室に行くこともプログラムに組み込んだら、もっと農業について、詳しく質問できたのかなとも思います。
- 学習活動以外でも、食事などの自由時間を毎日タイの学生さんたちだけでなく先生方もサポートしてくれて、ほとんど困ることがなくとても充実していました。今回は相手の学生さんが少し年上で経験もあり、多少自分の話す英語がちぐはぐでも、意味をくみ取ってくれてなんとか会話できたので、次は自分ももっと英語力をつけるのはもちろん、自分たちと同じくらいのノンネイティブの学生さんと交流をしてみてもう少しコミュニケーションの苦勞を味わわないといけないなと思いました。
- 自由時間も多く、KMUTT がバンコクに近いこともあり自由時間にたくさん観光に行けてたのしかった。最後にまたバンコクに行きたいと思えて、満足しました。 何個かのレポートが出されましたが分量が適切に変わったと思いました。ベトナムのときの分量はきつすぎました。
- このプログラムを通して英語を話すことに抵抗はなくなったが、英語力を上げるには期間が短かったと思う。次はもっと長期的に留学してみたいと思えるようになった。タイ人の学生との交流もでき、タイの文化を深く知る良い機会になったと思う。
- 今回のプログラムの機会は自分を変える大きな転機になったと思います。参加できて良かったです。
- 体調に恵まれず悔いがあるものになりましたが、それでも参加してよかったと思っています。ありがとうございました。
- とてもいいプログラムだったととても満足している。なかでも全体的に引率者が学生主体に勧めてくれたことがとてもよかったと思う。
- 今回のプログラムを通して、英語での授業やコミュニケーション、海外での生活に関して自信を持ったと同時に自分なりの反省点も見つけることができたため、今回の反省を活かして長期の留学に挑んでみようと思えた。



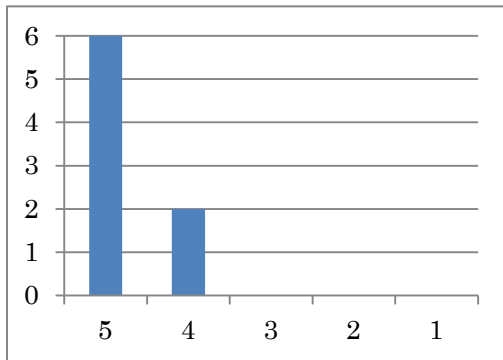
7. プログラム各項目評価。5点満点。



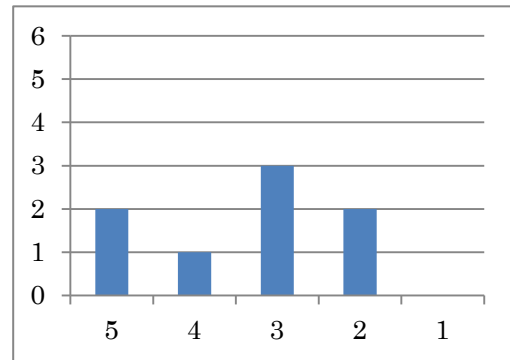
英語講義 4.13



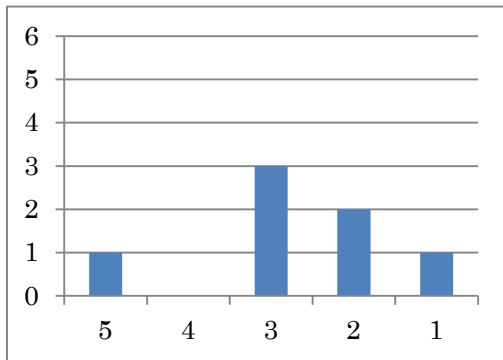
Team Working 4.00



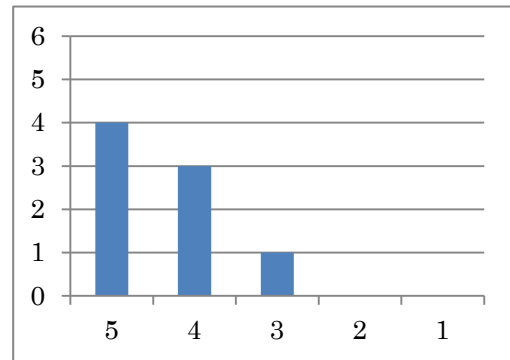
福岡県事務所訪問 4.75



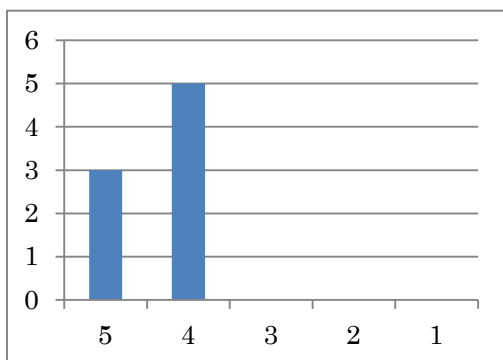
蘭農家・沿岸部見学 3.38



王立プロジェクト見学 2.71



Presentation 4.38



プログラム総合評価 4.38